

マルチネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ

Vol.20 先生と、言われるほどの……

「弁理士葦原エミ先生御机下」というお手紙をいただいて、クラクラしたことがある。すっごく敬っていただいているんだなあということは分かるが、「御机下」がそもそも読めない。辞書を引いてしまった(皆さん、読めますか? 分からない人、辞書引いてください!)。日本語、難しすぎ……。そもそも、これっていつ使うの? で、これにどうお返事すればいいの?? という感じ。

そういえば、医学系の特許担当者は、よくお医者さんに「御侍史」って付けていたなあ、なんてことも頭をよぎる。

そこまではいなくても、士業同士では、結構みんな「先生」と呼び合う。これも、実はよく分からない。

筆者の職場では、資格の有無を問わず「さん」で呼び合っているから、「先生」の呼び名が必要となるのは、もっぱら事務所の外でのこととなる。

いや、筆者だって「この人は『師』だ」と思う方や、お世話になっている方は、敬意を表して「先生」と呼ぶ。が、弁理士たちが、ただゴチャッと集まっている席で「先生」「先生」と呼び合っているのを見ると(長いモノに巻かれつつ)、正直うんざりして、「小学校じゃあるまいし……」と思ってしまうのだ。

が、ある友人の弁理士にそう言ったら、叱られた。

「みなさん、それなりの経験を積まれて弁理士業をしていらっしゃるのだから、それに敬意を示すのは当然!」

それはもちろん、そうだろう。でも、経験を積むのって、どの業界でも同じでしょ? 他の業界もみんな「先生」って呼んでる? だったら、普通に「さん」でいいんじゃない?

それに昨今では、クライアント自身が弁理士・弁理士というケースも増えている。そういう方

からメールや電話で「葦原先生」と呼ばれる

と「いや、あの、すみません。私も『先生』とお呼びすべきでしょうか? というか、『先生』って呼ぶのヤメテ〜っ!」みたいな気分になってしまう。

なかには「エミ先生」と呼んでくれる人もいる。「葦原先生」よりは好きだなと思いつつ、「『エミさん』でいいんですが」と伝えたら、「でもお、私の中で『エミ先生』が構成全体で一体不可分、よどみなく一連に称呼できちゃうんですよ〜」と商標の審決チックに説明され、「まあ、そ

ういうこともあるかしらねえ」と引き下がったこともあった。

……と、ここまで散々「先生」批判をしておきながら、実は、「先生」は最高に便利な言葉だと思っちゃってもあるのだ。

白状するが、筆者は名前と顔を覚えるのが大の苦手。5分前に名刺交換した方に「初めまして」と言ってしまった前科がある(しかも、一度だけではない)。数カ月ぶりに会った人は、「うっ。この人は絶対知っているはず、である。でも、誰だっけ?」なんてことはザラで、「あ、先生、お久しぶりです!」と言える日本語って素晴らしいと思うこともしばしばだ(筆者に「先生」と呼ばれた皆さま、お名前忘れるかも、です。ごめなさい)。

いや、ちょっと待てよ。ってことは……。

筆者もひょっとして、同じように覚えてもらえていないのかも。いや、すっかり忘れられているのかもしれない? そうだったら、悲しいな……。 (自分が覚えられなかったことを棚に上げ)。

と、考えたら「5分後に忘れられちゃわない自己紹介しなくちゃ!」と一気に反省モードです。そうか、便利な言葉「先生」を使わせない存在になるようにがんばろー! というのが、今月の誓いでした。



©Emi